

同窓会だより

編集発行/岐阜県立本巣高等学校同窓会本部事務局
(〒501-04 岐阜県本巣郡糸貫町仏生寺・TEL (0583) 24-1201)

卒業生総数:

20,176人

旧	中:	2,571人
高	女:	2,592人
高	校:	15,013人



校長 小林峯夫

着任あいさつと

近況報告

ご挨拶
同窓会長
井深透

あけましておめでとうございます。
輝かしい昭和六十三年の新春を二万有余名の同窓会会員の皆様とともに迎え心よりお慶び申し上げます。会員の皆様には、ますますお元気で各方面に御活躍御精進なさっておられますこと誠に御同慶の至りに存じます。

同窓会のこの一年の歩みを以下に御報告申し上げます。

本部総会は、昨年八月八日岐阜会館において岐阜支部と合同で開催されました。百二十六名の出席者は十二名の恩師を囲んで、時の移るのも忘れて懐かしい思い出話を花を咲かせ、友情の絆を新たに致しました。関西支部の総会は、青葉の緑も美しい五月十六日に大阪の東洋ホテルで、五十一名の出席を得て盛大に行われました。今年は神戸の国際会館で行われる由でございます。

名古屋支部においては、長年支部のためお骨折りを頂きました川瀬

年頭の御挨拶と致します。

ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

今までのよう外野席から眺めていただけではわからなかつた本巣高校のさまざまなかつ勝れた内容、実績を次第に知つてゆくにつれて、先輩の先生方や生徒の皆さんの跡をけがさぬようにと身が引き締まる思いです。

すでに御案内の通り本校の教育方針は「文武両道」の達成をめざすもので、生徒は文字通り、教室とグランドに青春の命の炎を燃やしているように、わたしには見つけられます。

飯尾誠太郎校長が定年退職され、後任として華陽高校からやってまいりました。旧制中学、高等女学校以来の伝統ある本巣高校に勤務できることをたいへん名誉のことと思っておりま

すで御案内の通り本校の教育方針は「文武両道」の達成をめざすもので、生徒は文字通り、教室とグランドに青春の命の炎を燃やしているように、わたしには見つけられます。

昭和50年51年に全国総合体育大会で、3位2位の伝統をうけついでいるソフトボールは今年も、県代表で北海道に出向き三回戦までゆきました。女子ハンドボールも少数の部員でなんばり県内優勝を果たし関係者をあつと言わせました。本巣といえば女子バレーといわれているバレーボールは、今や群雄割拠のあり

さまざま優勝こそできませんでしたが、やはり本校部活動の核となっています。

野球部は念願の初戦突破を果しました。八

年ぶりのことだということです。男子では、ラグビー部がよくやっています。県内ベスト4は動かない実力です。

進学の面でも、国公立合格者は百名を超えて、素直な人柄の生徒が多く、先生方の熱心な指導によくついてゆき、実力を伸ばしています。

本校の家政科が、全国の家庭科の高校の中でも特に著しい特徴を持ち、最優秀校として

全国的に評価の高いことを、関係の校長会に

出て初めて知らされました。

右に上げてきましたような、本巣高校の勝

れた今の実績は、すべて、わたくしが着任す

る以前の先輩の先生方や生徒諸君の努力の賜

ものであり、これが伝統というものであります。

何とかこの伝統を守り、出来れば更に一步

高みに登りたいと庶幾していきます。一層の御鞭撻をお願いいたします。

支部長が残念ながら御他界され、六月十六日高橋事務局長とともに告別式に参列し御冥福をお祈りしてまいりました。

京浜支部の川村支部長も、病魔の侵すところとなり、ついに黄泉の国へ旅立たれました由、残念至極に存じます。

名古屋支部・京浜支部ともに後任が決まれば総会が開催されこと存じます。その他揖斐郡の教職員の方々の同窓会を始めとし、各職域で会が開かれておりますことは御同慶の至りでございます。

想 隨

大塚憲一先生

(本巣中学第二回卒業生
旧母校恩師)

を偲ぶ

前校長、本巣中学二十回卒
飯尾誠太郎

昭和十六年十二月、日米開戦後間もないある日のこと、日本軍の大戦果が、昼休みの終り近くに生徒控室に掲示された。予鈴が鳴つて、私たちは歓声をあげながら教室に入ったのだが、第五限の授業は、国語の大塚先生であった。先生は静かに教壇に立たれると、興奮されめやらぬ私たちを見廻し、「君たちはどう思っているか知らぬが、米英を相手にして、一体この戦争に勝てるのかねえ」と言わられたのである。日本の必勝を信じて疑わなかつた當時中学生の私は、先生の言葉が、何か奇異に感じられてならなかつた。

しかし、戦になつて思い返すと、先生の教養と明眼は、すでに日本の敗局を予見しておられたのである。先生は、本当はもつと米英と戦うことの愚を説きたかったのであるが、累が学校全体に及ぶを危惧し、緒戦の捷報に酔つてゐる私たちに暗然たる思いで対しておられたに違いない。それに対して、『無敵皇軍』を呼号し、世を挙げて戦争賛美の中にはつて、先生のこの一語は、よほどの識見と氣骨がなければ到底口に出せぬ言葉ではなかつた。私は先生の胸中に思いを致すと、今も深い感動に襲われるるのである。

その先生が、私が五年生になる時、女子商業へ転じてゆかれることになった。私はその時も事情が分らなかつたが、戦後初めてその間の消息を知るに至つた。当時は「甲種飛行予科練習生」の志願者を増やせと、軍当局の圧力の強かつた時代であるが、先生は、それが若者を死地に追いやる結果になることに心を痛められ、担任の生徒に予科練を勧めるのに堪えられなかつたのだという。

思うに、女子の学校への転任は、ヒューマニズムの心あつい先生の、当時として可能な精一杯の抵抗ではなかつたか。後年、そのことを話すと、先生は自らは多く語るがまま、「ぼくは軍國主義に迎合はしなかつたつもりだが、あの頃ほど、巨大な権力を前にして無力な自分のみじめさを感じたことはなかつたよ」と、それだけを、しんみりした口調で言われたことを覚えている。

先生はまた、稀に見る好学の士でもあった。それについて、数学の坂口先生が、前夜の停電を理由に宿題を怠つた私たちを、こう言つてたしなめられたことがある。「君たちは、大塚先生が今朝眞赤な目をしておられたのを知つてゐるか。先生は昨夜、蠟燭の光で遅くまで本を読んでおられたのだぞ」いつか先生にその話をすると、先生は、「だつて、電気の無かつた昔は、みんなそうなんぢないか」と、事もなげに言つてのけられた。

戦後先生は、岐阜高校に勤務しておられたが、エリートの教育よりも勤労青年の教育に対する思い熱く、自ら望んで通信教育の方に転じられ、栄達を望まず、長く通信制の主事として定年まで節を貫かれた。

先生の生きざまは、いわば、「体制の中に在ることによって喪われんとするものを見据え、体制の外に在つて自己に忠実に生きんとした人」と言つてはいけないだろうか。(麓)といふ併考で、俳人としても名の高かつた先生に、次のような句がある。「五月の空蒼しく殿誉にはかかはらじ」「梅白し素直なる子よ反骨持て」共に先生の真骨頂を示す句と言えよう。私は先生の人間像を想起する時、今も限りない敬慕の念を禁じえない。

私はこの稿書き終えると、先生の墓に詣でて蠟梅の花を手向けて。昭和五十四年四月、輪禍のため七十才にして鬼籍に入られた先生の墓所は、生家の糸貫町の福心寺の南にある。冬枯れの墓地にたたずむと、葬儀の日、先生と親交の厚かつたある退職校長がつぶやくように言われた言葉が、ふと私の耳に甦つた。大塚さんは、リベラルな知識人だった。それに、いつも正論を吐く人だった――」。

支部だより

京浜支部

十六回卒 神谷春樹

名古屋支部

さる八月十一日川村福二支部長が突然なくなりました。支部として弔電を打つと共に告別式にも参列致しましたが、長らく京浜支部のお世話を頂き同窓会員の敬慕の念もひとしおであつただけに、かけがえのない方を失つて残念に思つております。

京浜支部の集いは五十九年を最後に中断しており、この会をお世話をした者として誠に不甲斐なく思つております。前回の会には、井深会長、飯尾学校長、中島事務局長が参加して下さり、三時間に渡つて楽しい一夕を過ごさせて頂きました。幸いにしてこの時、作成した京浜地区同窓会名簿がありますので、これをもとに同窓会を復活したいものと考えております。

近いうちに先輩諸氏にお集まりを頂き本部とも御相談の上、早急に支部長を選出して頂きたくと思っております。とりあえず近況を御報告させて頂きます。

岐阜支部

支部長 佐倉式二

昭和六十二年度の岐阜支部総会は、当支部が本部総会の当番支部であつたため八月八日(土)岐阜会館にて本部総会後に開催しました。高橋幹事(中22)の司会で支部長挨拶、井深会長のご祝辞をいただき、統いて小林会員(中7)を議長に選出し議事に入りました。

会務報告—八代幹事(中15)、会計報告—大野副支部長(女13)、監査報告—村木幹事(高11)、役員改選—八代幹事の説明にて議事原案どおり可決承認、岩田幹事(女12)の閉会の辞で総会を終了しました。

役員の改選は全員留任、外に新しく幹事として青木ゆき子(女20)、村瀬幸子(高6)が選出されました。支部会員の皆さん、次回総会(八回目)に出席下さい。

交換があり、役員改選では副支部長の一名に松村久子さん(高校36卒)が新たに選任されました。懇親会では懐旧懇談の中に歌あり、和やかさと熱気のうちに幕を閉じました。さて、次回総会は神戸に場所を移し、五月十四日(土)神戸国際会館で開催します。会員皆さんの奮つての参加をお待ちしています。

